

日工販ニュース Vol.1 — 2012



巻 頭 言 「厄除餅つき」	日工販理事 松田 紀男	2
話 題 の 技 術 「最新鋭複合加工機 NTY ³ -250」	中村留精密工業(株) 北本 雅一	4
リレー随筆	(株)牧野フライス製作所 細見 泰郎	6
工作機械と私	(株)三機商会 金坂 孝弘	7
私の読書評 「プリンシプルのない日本」	(株)兼松K GK 唐司 次男	8
S E 教 育 「合格者」		9
営業マン日記 「お金は大事だよ」	さかい三十郎	10
議 事 録 「理事会」「教育」「調査広報」「東部地区工場見学会」 「東部地区中堅・若手研修会、交流会」「中部地区正副会員懇談会」		12
甘 口 辛 口	三菱商事テクノス(株) 本多 長	19
統 計 資 料 「FA流通動態調査1・2」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」 「工作機械業種別受注額」「2011年 世界の工作機械需給」		20
行 事 予 定		27
お 知 ら せ 「第43回通常総会のご案内」		27
会 員 ・ 業 界 消 息		28
会 員 会 社		29

厄除餅つき



日工販理事

松田紀男

(植田機械(株)取締役社長)

当社の年間行事は仕事始めの京都伏見稲荷参拝に始まり、今宮戎、厄除餅つき、ゴルフコンペ、UM忘年会と続き、仕事納めの伏見稲荷参拝に終わります。今日はその中から「厄除餅つき」についてご紹介します。

餅つきと言えば、昔は大晦日に各家庭でももち米を用意して、「賃つき」と称する餅つき屋に餅をついてもらった。農家等の体格の良い大人が7~8人で餅をつく。威勢の良い掛け声で手早く美味しそうな餅がつき上がる様は、何とも面白く、子供ながらに正月気分を楽しんだ。

私が植田機械に入社後、5年経った41歳の年、植田社長（現会長）から『「厄除餅つき」をして、ご近所さんにも「厄除ぜんざい」振る舞って厄を飛ばそうやないか！』という声から当社の餅つきがスタート。以来、社員に厄年の者がいない年はお客様やメーカー様に声をお掛けし、今年で30年。当初は人数も少なくなかなか上手くつけなかったが、徐々に参加者も増え、今年は90人の大所帯となった。

農家（元ゴルフ場のキャディーさん）から購入した70 kg のもち米を餅つき前日に社員で分担し、自宅に持ち帰り洗米する。当日は早朝より4台のコンロ



でもち米を蒸し、掛け声の上がる中、二基の臼で餅をつき上げた。30年ともなると、各工程指示も無い中、各人が配置に就く。

つき上がった餅は桶に取り丸めて小餅が出来上がる。餅は種類も豊富で、白餅・エビ・青のり・黒豆・ゴマ等、次々と出来上がっていく様は、生産工場さながらだ。とは言え、面白いエピソードも多く、餅が杵に付いたまま持ち上がり、次の瞬間地面に落ちて石ころだらけに・・・以来ニックネームが「石餅」になった人もいる。

餅つきの間、テーブルに並んだ酒や乾きもの、寿司におでん屋から取り寄せたおでん、ぜんざい等を囲み和気あいあいの歓談が始まる。その中には尻から根が生えた様にどっしりと「これが私の仕事」とご満悦の人もいれば、延々と情報交換を続け、完全に出来上がる人もいる。

長年の間には転勤や退職でメンバーも少しずつ入れ替わり、残念ながら技術のプロは減ってしまった。餅つきは初心者という若者もいて、腰が入らず難しい面もあるが、古くからの文化でもあり、経験を積んでもらい世代交代をしながら、今後も続けていきたい。

若手中心となった今日も各作業の中で、各自が強調し、融合し合って仲間意識が高められ、古き先輩たちの話題が絶えない。

こうして午後四時頃には70 kgの餅が全てつき上がり、皆で厄除餅を持ち帰り、行事は終わった。

入社以来、総合力を備える事が大切と指導しています。仕事で案件が発生すれば、担当者不在であっても全員で事に当たる。礼儀作法では5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を常に心がける様に話し合う。こうした事は当社各行事でも培われていると考えます。今後も「厄除餅つき」等の行事を次世代に引き継ぎ、植田機械の新しい仲間づくりを続けていきたいと思っております。

分かりやすい話題の技術

Inteligible Recent Technics ★

No.127

最新鋭複合加工機 NTY³-250



中村留精密工業(株)
営業本部エンジニアリング課
北本 雅一

一台完結, 小規模生産に最適 つかんだら放さない、放す時は完成品

当社の複合加工機には大きく分けてATC型複合加工機とタレット型複合加工機がある。いずれも左右に一つ、合計二つの主軸が同軸上に向かい合って配置される対向型2スピンドル構造を基本に上下に刃物台が配置された構造となっている。

生産性を高めコストを低減する市場ニーズに応え1988年に複合加工機のTWシリーズを世界に先駆けて販売開始。この時海外マーケットから出

たニーズが下側に刃物台を取り付けて欲しいというものであった。

2000年に究極の生産性を誇る4タレット型複合加工機のWTW-150と3タレット型複合加工機WTS-150を発表して実現した。

TWシリーズを発表以来20数年、『つかんだら放さない、放す時は完成品』のコンセプトのもとにオリジナリティ溢れる製品を市場に投入して来た。



最新鋭複合加工機 NTY³-250

3タレット機はNTY³-250で5機種目となった。

最近小規模生産方式と言われる言葉が多用されている。製品の多様化という市場の変化に伴い、大量生産から多品種少量生産にものづくりがシフトして来たからだ。

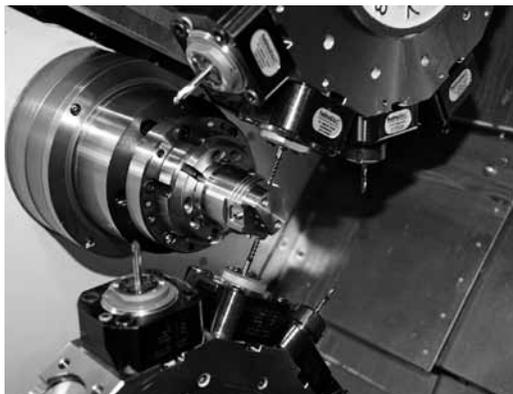
高級機である複合加工機がようやくマーケットに認知され生産現場で広く導入されるようになって来た。高出力モーターを使って1本の工具で一度に沢山削り取るという加工方法は効率が悪くコストもかかりオールドファッションとなった。最近のトレンドは二つ以上の複数刃物台『マルチタレット』によるマルチポイント加工だ。全てのタレット(刃物台)にY軸とミーリングを搭載してミーリングの加工範囲を広げる多軸化の流れがそれだ。

当社の最新鋭機種 NTY³-250 では112mmのストロークを持つY軸と5.5/3.7kWの高出力ミーリングモータを3つのタレットに搭載する。その合計出力は16.5/11.1kWにもなる。複合加工機は合理的だ、主軸モーターの加工負荷を考慮しながら上下の刃物で同時に加工する事で時間の短縮が図れる。表・裏(1・2工程)のバランスも考慮して加工範囲を決める。加工時間が長いミーリング工程も三つの工具で同時に加工を行えば1本で加工するよりも圧倒的に早く加工を終える事が出来る。全てのタレットには同じ移動範囲を持つY軸を装備するので制約がなく使い易い。又複合加工機にはL、R主軸にC軸が標準装備される、これ

は主軸を1/1,000度単位で制御する機能でマシンングセンターでオプションとなるロータリーテーブルの機能に相当する。1台で完結するセルシステムは複数台で生産する工程分割システムより早く生産を開始する事が出来る。

ガントリーローダー、ロボット、バーフィーダー、シャフトローダー・アンローダー等各種自動化も得意とする所だ。更に機械の稼働率を上げる為、プログラム作成ソフトとシミュレーションソフトで構成される『NTマルチタスキングオフィス』を開発した。工場の機械と同じ環境を事務所で再現し生産性の高いプログラムを作成する。これにより試削り工程の外段取化が実現し生産性の大幅な向上が実現する。初品完成品、段取り時間ゼロ、中間仕掛在庫ゼロを具現化する。

当社では業界に先駆け19インチの大画面液晶タッチパネルを採用したパソコンNCに切り替えが進んでいる。ボタンとスイッチによる機械操作から、指、視線、音声等を使った新しいユーザーインターフェースの開発が進んでいる、パソコンNCの搭載でプログラム以外のナレッジ情報の蓄積が可能となる。Webを使った機能の開発、各種サービスの展開など課題は多様化している。



上下刃物台での同時ミーリング加工



19インチ、カラー液晶タッチパネル搭載した新型制御盤



リレー随筆



(株)牧野フライス製作所
MAKINO (THAILAND) CO.,LTD.

細見 泰 郎

今回、MAZAK (THAILAND) CO., LTD.の天津高人様より随筆リレーのバトンを受けました、MAKINO (THAILAND) CO., LTD.の細見泰郎です。

私は、タイ王国に駐在して、約2年。日本にいた頃より暖かいため、お腹が痛くなる回数は激減しましたが、ものもらいと高熱と乾いた咳が出る回数は増えました(今、ものもらい気味…)。

そして、滞在日数より明らかに多数の名刺を交換させていただいておりますが、私を含めタイに居る方は、「泰」の文字が含まれている事が非常に多い印象です。試しに名刺を交換させていただいた方でどれくらいのパーセンテージか数えてみようと思いましたが、ヒマな営業マンだと思われたら困るので、止めておきます。

さて、最近は夜の活動(注：お酒を飲むこと)にも飽きが生じ、折角縁があってこの国に参りましたので何か別の楽しみを見出そうと努めております。お寺にお参りに行ってみたり、フラットに入ったタイ語学校に入学して、くねくね文字のタイ語を本格的に勉強してみようと思ったり、ラチャカーン・ティー・5世が人気あるのだな、など歴史をなぞってみたり。

その中で、最近のマイブームは、タイ語です。タイの方は、実はタイ語、英語、その他にもう1か国語を話せる方が意外と多い気がしていますが、私も負けまいと、タイ語に的を絞って勉強する事にしました。特に、私の話すタイ語は初対面のタイ人には全くと言って良いほど通じません。面白すぎます。

ですので、まずは言語学校に身銭を切って通う事にしました。妻からも、「なんぼ払ったん？」などと聞かれながらも、基本的に毎日仕事が忙しく、帰りも深夜がもっぱらなので、少しは夕方定時で帰って気分転換も兼ねて学びたい旨を会社に伝え、快諾してもらいました。

タイ語は、中国語などと同じように、声調という日本にない言葉のイントネーションがあり、これが全くもって難しく、通じない要因の一つと思われます。また、ローマ字で書くと"YI"の発音他、日本語や英語にない発音がいくつかあり、特に"YI"は、色々なタイ人に多分500回は発音してチェックしてみましたが、やっぱり何か違うみたいで通じません。また、くねくね文字は冷静に考えれば、日本語のひらがなと漢字の数に比べれば、覚える量は圧倒的に少ない。慣れの問題だろうと、時間があれば単語を覚えるか、タイ文字を見るようにして理解に努めております。

学ぶには年老い過ぎた、と言う者は若い頃からそうだったのだろうと、幼い頃の牛乳パックに記載があり目にしましたが、そうならないよう、何かに挑戦を続ける事こそわが人生、当面飽きるまではタイ語に挑戦したいと思います。とはおおげさか。

最後に、随筆リレーをお渡しいたしますのは、タイに駐在しており、やはり「泰」の文字がお名前に入り、同じく境遇で日々邁進されている、日立ツール(株)の森田泰輔様です。

工作機械と私



(株)三機商会
特機部課長

金 坂 孝 弘

今、東京は桜が満開です。昨年は東日本大震災の後ということもあり花見も自粛ムードが漂っていましたが、今年はかなりの人で賑わっているようです。花見にまつわる失敗談は数知れずありますが恥の上塗りになるので今回は自粛致します。

私がこの業界に入ったのは1980年代初めの第二次石油ショックが終焉に向かい経済成長率も4～5%程度で比較的安定期に入るところでした。工作機械が油圧パルスモータからDCサーボモータへとNC装置付の工作機械が汎用機として認知され始め世の中に普及していった時期でもありました。一方で主に自動車部品向け等の量産機はトランスファーマシンに頼らなければなりませんでした。

シリンダーブロック・ナックルステアリング等の部品は数十のステーションで構成される専用機で30秒程度のサイクルタイムで加工されていました。チョコ停等のボトルネックを解消する為、数百個あるリレーとにらめっこする日々が続いたのを思い出します。車のモデルチェンジサイクルが短くなり大きな改造が少ないNC装置付の機械をベースにしたFTLに置き換えられ、現在はボトルネックの影響がないロボット付の単体複合加工機を複数台平行に配置されている形態となっている様です。

1980年代半ばのころI社のCADAM導入に携わりました。ドラフターがライトペンとキーボードとCRTに替わり、年配のベテラン設計者は特に苦労されたと思います。トレースが貼り付け(コピー)に換わり、データベースが整った後はその効果が発揮されました。その後CAD/CAMが普及され、特に金型業界にはコストダウンの必要アイテムにまでなりました。また現在3D化し設計能率も開発スピードもさらに向上しました。

1980年代後半のバブル経済の工作機械業界はその恩恵にあやかりました。「立形MC3台を購入し2年で償却出来る!」なんて話など当たり前のようにありました。殆どの業種が忙しく納期対応に追われたのは今までに無かった経験でした。1991年に入りバブル経済は崩壊。この時、特に半導体業界の恐ろしさを初めて知る事となりました。半導体製造装置及び関連装置メーカーは莫大な在庫を抱え下請け企業へ出される仕事は全く無くなりました。この後、半導体業界は急激な上昇と下降を繰り返し現在に至っておりますが、近年特に韓国・台湾の企業の台頭が目立っており業界地図も変わりつつあります。

今や我々を取り巻く環境はグローバル化が進み、従来の日本の製造技術・工法を用いた製品も思いもよらない方法(工法)により低価格で実現してしまうケースが出てきています。量産にはプレス等の塑性加工が当たり前と言う発想です。しかし、台湾のEMS企業は大量台数の日本製の切削型NC機を設備し、製造拠点は中国で、とローコスト生産を実現しています。

工作機械は特にこの10年速いペースで進化しています。私たち工作機械商社はより広くアンテナを張り引出しを増やし、また世界に目を向けタイムリーで効果的な提案をお客様から求められています。まだまだ、おじさんも頑張りますぞ!

「プリンシプルのない日本」

白洲次郎 著 (新潮文庫)



(株)兼松KGK
FS本部東京営業部
唐 司 次 男

白洲次郎。第二次大戦後、占領時代、GHQとの折衝に尽力し、戦後復興に力を注いだ日本人です。海外貿易進出、電力事業と種々に実績を上げ、GHQからは従順ならざる唯一の日本人といわれた。辞書によるとプリンシプル=PRINCIPLE。原理・原則、基本となる考え方。主義・信念・行為、思想の基本となるもの。複数形では、道義・正道・高潔の意、と。“プリンシプル”の言葉を白洲自身何度も口にしており、この言葉は彼自身に強く染みついている言葉でもあります。

白洲次郎について簡単に紹介させていただきます。

1902年兵庫県芦屋市生まれ。1925年ケンブリッジ大学卒。1928年華族の榊山正子(白洲正子)と結婚。1937年このあたりから閨閥特有の縁故にて吉田茂と昵懇になる。二人とも親英米派、おりしも1940年、日独伊三国同盟。同年、現町田市に農家を購入、戦争を予期し疎開する。一切の役職を辞して農業に勤しむ。

1945年戦後、外務大臣に就任した吉田茂に懇請され、戦連絡中央事務局参与に任。

1948年商工省初代貿易庁長官に就任。

1951年5月東北電力会長就任。

1951年9月サンフランシスコ講和会議に全権団顧問として随行。

1985年11月28日死去。

現役時代のエピソードは種々、GHQ要人に対して「日本は、戦争に負けたのであって、奴隷になったのではない。」などという言葉を好んで使っていました。

白洲自身「プリンシプルとは何と訳したらよいか知らない。原則とでもいうのか。…西洋人と付き合うには、すべての言動にプリンシプルがはっきりしていることは絶対に必要である。日本も明治維新前までの武士階級等は、総ての言動は本能的にプリンシプルによらなければならないという教育を徹底的にたたきこまれたものらしい」といっている。

実際、英国留学中、特権階級の友人たちとの青春時代と多感な時代を過ごした。もともとはやんちゃな、乱暴な人物だけに、何かに餓えていただけだったかもしれない。また白洲自身、留学時代の生活は英国ジェントルマンの姿があたかも白洲家先祖の儒学者のDNAを呼び覚ましたのかもしれないのではと。白洲の友人でもある小林秀雄は朱子学の素養で説明しているが、為政者の器とか、為政者のなんたるかを、モノを背負う事の責任の重さとして白洲は言動していると思う。

本の中でも訴えている。「吾々の時代にこの馬鹿な戦争をして、元も子もなくした責任をもっと痛烈に感じようではないか。日本の経済は根本的に立て直しを要求しているのだと思う。」と。

実際、この本は戦後史・白洲次郎直言集という形で、文藝春秋」1951年9月号から16編にわたり編纂したものです。

最後に「プリンシブルのあった人」の題にて、辻井喬こと、元セゾン総帥：堤清二氏が寄稿。その中の一節に“この著作集は、全巻至るところに鋭い文明批評があり、歯に衣を着せない批評があり、それでいてなんとも暖かく、いろいろ個性をも包み込む人間味を感じさせる。この『プリンシブルのない日本』に収められている論文は、かなり昔に書かれたものも含まれているのだけれども、いずれもそのまま21世紀初頭の我が国への忠告として読むことができると思われる。”と

『苟日新、日日新、又日新』（まことに、日に新たに、日に新たに、又日にあらたなれ）と。

恐悦至極頓首謹白、合掌。



日工販SE合格者 第187回発表

今回は2012年2・3・4月の合格者28名です。

2012年2月の合格者12名

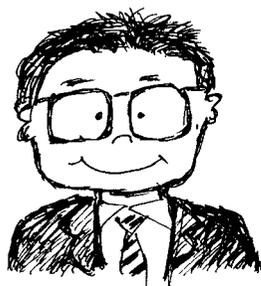
認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
12-21-2626	(株)兼松K GK	生田 力	12-21-2632	(株)ヤマモリ	熊谷 秀司
12-21-2627	(株)NaiTO	増田 陽司	12-21-2633	ユアサ商事(株)	井上 康弘
12-21-2628	(株)ナチ常盤	樋口 卓	12-21-2634	(株)東陽	川野 哲也
12-21-2629	三井物産マシンテック(株)	樋高 讓	12-21-2635	西川産業 株式会社	三井 一宏
12-21-2630	三井物産マシンテック(株)	杉山 範高	12-21-2636	(株)森精機セールスアンドサービス	堤 健一
12-21-2631	三菱商事テクノス(株)	大倉 賢一	12-21-2637	昭栄産業(株)	笹川 俊基

2012年3月の合格者6名

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
12-21-2638	(株)NaiTO	田替藤孝司	12-20-2641	メルダシステムエンジニアリング(株)	長谷川 健
12-21-2639	(株)NaiTO	今井 利則	12-21-2642	三菱UFJリース(株)	船橋 啓二
12-21-2640	三井物産マシンテック(株)	円尾 尊弘	12-21-2643	マザックニシカワ(株)	和田 能明

2012年4月の合格者10名

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
12-20-2644	(株)日本精機商会	古茶 儀宜	12-21-2649	宮脇機械プラント(株)	難波 竜虎
12-20-2645	オークマ(株)	江面 貴史	12-21-2650	近畿総合リース(株)	河村 真治
12-21-2646	(株)兼松K GK	卜部 裕義	12-21-2651	三菱UFJリース(株)	高市 惇平
12-21-2647	(株)東陽	野村 幸司	12-21-2652	三菱UFJリース(株)	桑原 健一
12-21-2648	ワシノ商事(株)	谷澤 賢	12-21-2653	ひろぎんリース(株)	前田 克二



営業マン日記

さかい三十郎

お金は大事だよ

営業マンの使命は“販売する”ことであるが、最終的には顧客から“販売代金が入金”されなければ完結しない。今回は販売代金にまつわる“貨幣と紙幣の話題”を提供したい。(気になる製造コストもマル秘で記載します。産業機械メーカーの製造コストよりも意外に低い…)

“硬貨”は独立行政法人造幣局で製造され、“紙幣”即ち日本銀行券は独立行政法人国立印刷局で製造され日本銀行に納入される。

貨幣(硬貨)の話題

造幣局によると2011年・市中流通向けとして1円玉は製造されなかった。これは1968年以来43年ぶりのことであり、電子マネーの普及により小額貨幣の需要が低下傾向にあるからだ(なお正確には流通用としては製造されなかったが“貨幣詰め合わせセット用”として45万6千枚製造された)。一方、100円玉は自動販売機向け需要で前年68百万枚から179百万枚に増加している。

ご参考までに法律上の貨幣とは次のとおりとされている。

①1948年(昭和23年)以降に発行された5円硬貨、②1951年以降の10円硬貨、③1955年以降の1円及び50円硬貨、④1957年以降の100円硬貨、⑤1982年以降の500円硬貨。

(コインマニアの方は記念硬貨を収集されているが、これには千円、五千円、一万円、五万円、十万円硬貨の高額コインもある)

毎年11月24日、大阪造幣局で“貨幣大試験”が実施されている。当然のことながら“硬貨が規定の重さで製造されたか”を調べ、貨幣の信用維持の為にこなわれているイベントだが、1872年に始まり2011年で140回目を数えた歴史ある行事だ。

1円から500円までの硬貨6種類や記念硬貨が対象となり、精密てんびんを利用して測定される。因みに100円硬貨ならば1,000枚で4.8kgとなるが、誤差許容範囲は僅か16g以内即ち0.3%以内とのこと。

なお、貨幣をみだりに損傷・錆漬し(いつぶし)すると1年以下の懲役又は20万円以下の罰金に処せられるので留意されたい。

紙幣の話題

現在主に有効な紙幣の肖像になった人物は次のとおりである。

高橋是清の50円券、②板垣退助の100円券、③伊藤博文の千円券、④聖徳太子の100円券・千円券・五千円券・一万円券、⑤岩倉具視の500円券、⑥福沢諭吉の一万円券、⑦新渡戸稲造の五千円券、⑧夏目漱石の千円券、⑨樋口一葉の五千円券、⑩野口英世の千円券。

紫式部が2000年に発行された二千円券に記載されているが、これは裏面の図柄として採用されたもの。表面は守礼門、ゆかりの深い沖縄県では盛んに普及キャンペーンがされたが、残念ながら流通割合は“1万円札が約60%、千円札が約30%、五千円札が9%、二千円札が1%未満”となっている。

紙幣は焼損・破損がありえる。万が一、紙幣を燃やした場合には紙幣の残りを日本銀行に持参すれば、次の基準を目安に引き換えされるので申し出されたい。

紙幣の面積が2/3以上残っている場合は全額、2/5～2/3未満は半額、2/5未満は不可。万が一“燃えカス”の場合は気を付けて持参され、先方の判定を願うしかない模様です。

製造コスト

気になるのは双方の製造コストであるが、これは公表されていない。

紙幣なら日銀から印刷局に支払われている製造経費を製造枚数で割れば、それなりの目安が出る。千円でも一円でも材料費は用紙とインキであろうから大差は無いと思う。マル秘にしてほしいが一万円紙幣の一枚当たりの製造コストは約40円程度と推定される。

ちなみに2009年度に製造された全ての紙幣の枚数は33億枚とされ、日本銀行券製造費は約500億円であることから、単純計算で紙幣一枚当たり約15円となる。

硬貨も造幣局の経費で想定できるが、原材料は銅・亜鉛・スズ・ニッケル・アルミなどに分散されており（地金価格もバラバラであり）、大まかに推定すれば100円玉で20円程度と推定される。

紙幣の偽造対策

貨幣の偽造事件は少ないと思うが（リスクの割にはメリットが少ないので）、高額紙幣ならば話は別だ。米国でもアジアでもニセ札偽造団が暗躍している。日本の紙幣は印刷技術に優れており偽造しにくいとされている。

紙幣は偽造防止のため約20年毎にデザイン変更されており、偽造防止技術で代表なのは“マイクロ文字”“特殊発行インキ”“ホログラム”だ。ホログラムは金属箔にレーザー光線を使って模様が描かれ、見る角度によって変化する優れた技術だ。（それでもカラーコピー紙幣が頻繁に出回るのだからちょっと寂しい）

“原材料の紙”“印刷機械”“型彫機”“インキ”があれば偽物でなく本物が作れる。

これから先は言わぬが花の玉手箱、宝くじ・ロト6の当たりを待つのが賢明だ。

映画の話題

ニセ紙幣で真っ先に思い出したのは高倉健、松田優作、マイケル・ダグラス共演の“ブラック・レイン（1989年）”、ドルの原版造団を追い詰めるサスペンス作品だ。

こんな勤務経験もある

サラリーマンの給料は現金支給されていたが、昭和43年12月10日に発生した三億円強奪事件以降は急速に給料の銀行振込みが進む。昭和53年から63年まで管理部門に従事していた筆者は、三菱銀行新宿支店から新宿御苑近くの事務所ビルまで現金輸送を担当したことがある。ジュラルミンケース2箱を両手に持ち、待っているハイヤーで移動の後、ビル内管理部門専用の部屋に搬入した。当時は給与担当員により社員約千人分を個人別給料袋に千円単位まで袋詰めしており大変な作業であった。筆者は銀行振込みに最後まで抵抗したが上司の説得に負け同意した。あの頃までは亭主の権威もあったが、今は“亭主不在で振込み一番”となり寂しい。



第238回 定例理事会

日 時：3月7日(水) 14:30～16:30

場 所：大阪産業創造館 6階D会議室

出席者：上田会長、副会長2名、専務理事、
理事22名(有効議決権22)、監事1名、
事務局1名

上田良樹会長挨拶：

本日は平成24年度最後の定例理事会となります。付議事項が2件ありますのでご審議をよろしくお願い致します。

【付議事項】

1) 平成23年度決算見込み報告

教育事業特別会計：目標とした受講者数に達しなかったため、期初予算に対し受講収入減が大きな要因としてマイナスとなる。

一般会計：二年に一度の正会員各社の会費見直しを実施され、下期より月額会費が下がる会員が上がる会員を上回り期初予算に対し会費収入減となること大きな要因となりマイナスが増加となる見込み。

2) 平成24年度事業計画案・予算案策定方針について

1. 事業方針については平成23年度と同じ内容で変更ない。
2. 主な事業内容については、IMTS2012での国際会議参加とJIMTOF2012での国際レセプションの開催が平成22年度とは異なる点であるが、国際レセプションについてはIMTS2012後の開催故、前回と同様に欧米販売協会の参加を期待できないと判断されるので国際レセプションの開催を見送ることに決定。
3. ほとんど行事に参加しない会員が参加してみようと思う企画に予算を使うことが重要であり各委員会はこの点を念頭に行事を企画する。

【報告事項】

1) 流通動態調査平成24年1月結果：

平成23年暦年の日工販正会員39社の工作機械受注合計が2,698億円となり、日工会発表の内需合計4,216億円の64%となり全正会員とすれば70%強にはなると思われる。尚1月受注は日工

会と同様に12月に比べ下がっている。

2) 委員会報告：

①教育委員会

3月1日に開催。平成17年度改定以来見直しをしていない「SE制度運用基準」の内容確認と現行に合わせ改定を行った。予算に関係がある来年度受講生数目標については基礎講座60名、SE講座を150名とした。

②東部地区委員会

2月22日に新潟県長岡市在のメーカーへの工場見学会を行った。訪問先は(株)太陽工機、(株)ツガミ、(株)オーエム製作所の3社。参加者は61名と盛況であった。

③西部地区委員会

1月25日に恒例の新春時局講演会を開催。51名参加。講師は毎元三和総研理事でエコノミストの松下滋氏。演題は「難局を乗り越え高度先進国へ」で東日本大震災以降落ち込んでいる景気、歴史的な円高、ユーロ不安等がこれからの内需に対しどのように左右して行くかを噛み砕いて分かり易く説明された。

【情報交換】

1. エネ革税制が受注に作用してきており相当の駆け込み受注がある。平成24年度も政府のこうした税制が施策の中に入ってくれば受注増に対し根強いものになる。企業が海外流出しているのは現実のもので海外現法では進出企業、増設企業によりまとまった商談、受注があり追い風が吹いている。国内だけ見れば厳しい状況が窺えるが国内外合わせれば安定した推移となる。
2. 海外比率は6割位。中堅以上の顧客は生き残って存続するなら設備をしてコストを下げるか品質を上げるしかないと考え、現状維持で衰退を待つか積極的に打って出るか二者択一を迫られている。
3. T社グループの部品メーカーは最近T社のことを気にしなくなっており他自動車メーカーの取引に力を入れている。
4. 関東の中小企業を見ていると仕事が減っている。海外、特にアジア向け設備、部品などは好調。メキシコ向けに引き合いがあるが、人件費が米国の1/7

との事で安い設備を求められている。人件費の安い国には先進国製設備売り込みに難しさがある。

5. 中堅以上の顧客は設備更新を迫られている状況であるが、従来からの設備を単に更新するのではなく今まで切削加工してきたものを冷間鍛造に変えその後の機械加工をするような加工プロセス変更に伴う設備の話が多くなってきた。エアバス320関連は開発が遅れているため設備関係の商談は2年ほど遅れる。
6. 投資を抑えていた先はもう我慢できない状況。小さな企業でも海外に進出するところが出てきている。N社はものすごく元気でいくつかの海外プロジェクト同時進行で動いている。プレスの納期はどれも満杯で納期1年半を超えている。
7. 各自動車メーカーの幹部が心配しているのは、海外にどんどん進出し投資して海外と連結し利益が出ると日本の社員がこんなレベルで利益が出るのかと結果的に投資に頼って儲けるのが当たり前前の考えになるのが怖い。
8. 国内外で中古機械の需要は多いが供給が伴っておらず中古機械があれば売れるという環境で

あるが、それは仕様、メーカー、新しさなど求められている機械が無いということ。今年1月1日のパナソニックグループ新体制発足で、一本化する前の駆け込み受注のため1-3月は良かったが、来年度は調達の本体化によってどうなるか読めない状況。

9. これだけ円高が進むと現地・現地で調達というミッションでいろいろな所で動いているようだ。T社の計画では2-3年後の方が設備投資が多く全体的にはその頃に良くなるのではないかと思われる。
10. 台湾製、中国製の機械が現地日系企業より調達され始めており、中国製はリスクが大きい台湾製の機械は取り込むことを考えないとやっていけない時期が来ている。台湾のメーカーでもサービス体制がしっかりしている所があるが、売り切りごめんのメーカーとは付き合わない方針。
11. 日本の治具メーカーとの中国の合弁会社は日系企業から注文が入り始めている。核となる設備は、やはり日本製であるがそれ以外の設備では、日本製を購入してもらうのはなかなか難しい。

第101回 教育委員会

日 時：3月1日(木) 12:30~14:45

場 所：機械工具会館 5階会議室

出席者：後藤委員長、委員8名 事務局2名

後藤委員長挨拶：

早いもので今年度のSE教育活動は終了し、来年度の計画を立てなければならないということで、まずは本年度を振り返って来年度はどういった形態で取り進めるかということを主眼に今日は討議をして頂きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

【議 題】

1) SE制度運用基準について

平成17年11月9日に改訂以来、運用基準内容の見直しを行っていなかったため、下記の通り検討の結果取り決めた。

- ① SE資格有効期間など、各項目に記載の期間については変更なし。
- ② 更新研修は現在必修講座1日と特別講座1日の受講となっており、現行規程に合わせて修正を行った。

③ 永世SE申請手続きはSE資格期限が到来した者とする。

④ 旧規程の更新研修合格後の再更新は廃止されたのでこの部分は削除する。

⑤ 資格有効期限が近づいている対象者には、事務局より声をかけ落ちこぼれを極力防ぐ。

2) 更新研修旧制度受講者救済期限について

本年度更新研修開始前の対象者は38名であったが、その中から3名が本年度の更新研修を受講し復活した。救済は来年度限りとして対象者35名に対しその旨連絡することにする。

3) 平成23年度SE講座、更新研修受講生アンケート集計結果報告

同じ講師で不満としている一方、満足となっていることもあり受講生のレベル、担当分野によって受け止め方は様々であるが、抜本的に改善すべき講座は無かった。希望テーマの中で、「BRICsを中心とした新興国の工作機械市場分析」については、「切削機械の動向」を担当している福村講師

に講義の中に入れて頂くことにする。

4) 平成23年度教育事業収支報告

東日本大震災の影響もあったと考えられ受講生数は伸びず、受講料収入面では大きく下回り収支見通しはマイナスとなる。

5) 平成24年度教育事業方針について

- ①受講料は現行通りで変更なし。
- ②計測の実技指導は(株)ミットヨ営業技術部副主査 渡辺昌弘氏にお願いすることになった。(2月15

日坂田委員と共に打合せ済み)

- ③基礎講座実習指導料、講師謝礼は現行通り変更なし。
- ④カリキュラムも現行通り変更なし。

6) 平成24年度各講座事業計画について

- ①基礎講座：60名の受講生を見込む。
- ②SE講座：150名の受講生を見込む。
- ③更新研修：対象となる受講生を事務局で確認の上決定する。
- ④永世SE：上記と同じ。

第111回 調査広報委員会

日 時：3月28日(木) 12:30～14:30

場 所：機械工具会館5階

出席者：田尻委員長 委員6名 事務局2名

委員長挨拶：

今年度最後の理事会となりました。日工会発表2月の受注は1千億円を超えましたが、内需は相変わらず3割台となっています。日工会横山会長は内需には掘り起こせば潜在需要があると発言されており、調査広報委員会も内需掘り起こしに何らかのお役に立てればと思っています。それでは議事を進めたいと思います。

議 事：

1) 平成23年度収支見通しについて：

日工販ニュース製作費が予算を上回った結果、予算比マイナスとなったが、主な理由として下記の通り専務理事より説明があった。

1. 予算作成時に平成22年度の実績を参考としたが、平成22年度は創立40周年記念誌の発刊があり積み立てた特別予算の一部を充当しており

予算参考の対象ではなかった。

2. 総会特集号では2年に1度の役員改選報告があり役員紹介ページが増加している。
3. これまで議事録、資料統計、報告事項などを10回に分けて掲載していたが、5回の発行となることにより1冊あたりの掲載量の増加を考慮していなかった。

2) 平成24年度事業計画について：

①日工販ニュースについて：

1. 平成23年度と同様に年間5回の発行とする。従ってJIMTOF特集は1月号に掲載する。
2. 1冊当たりと頁数は45ページ前後とする。
3. 内容として会員に役に立つ情報の掲載を検討。「輸出管理」「下請法」「労災」「P.E」「建業法」「健康問題」「VISTA」など候補があがった。
4. 表紙カラーは事務局推薦のオレンジ色とする。

②日工販会員名簿について：

ホームページを活用頂くことにして名簿の発行は取り止める。

東部地区工場見学会

開催日：2月22日(水)

訪問先：新潟県長岡市

参加申し込みが56名となり事務局1名の総勢57名は1台のバスでおさますマイクロバス1台を追加という主催者側としては嬉しい悲鳴となりました。

前日まで天候が不順で心配されましたが、当日は晴天に恵まれた見学会となり57名の参加者を受け入れて頂いた(株)太陽工機、(株)ツガミ、(株)オーエム製作所各社の関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。

見学会の行程は次の通り。

午前：(株)太陽工機本社工場を見学。

代表取締役社長渡辺氏より同社状況についてご説明頂き、受注が好調であり来年度は初めて本年末までの受注が見通せると力強いお話しがありました。引き続き40トン走行クレーンが設置された新工場を見学。

昼食：“角さんの台所”で当地名物“のっぺい汁定食”、昼食後すぐ隣の田中角栄記念館を見学。

午後：(株)ツガミ 長岡工場を見学。

取締役専務執行役員長岡工場長新嶋氏よりご説明頂いた。見学した組立工場では所狭しと機械が並んでおり活況を呈していました。

(株)オーエム制作所本社工場を見学。

事業部長常石氏、技術開発部長中村氏よりご説明頂いた。2グループに分かれて工場を見学、これまで見学した製造現場と違って構成部品がどれも大きく大型機械製造現場とはこういうものかと実感。

東部地区中堅・若手研修会、交流会

日 時：3月15日(水) 14:30~17:00

場 所：機械工具会館6階ホール

講 師：宇佐美 浩

(日本工作機械販売協会専務理事)

出席者：17社53名(女性5名出席)

交流会

時 間：17:15~19:00

出席者：13社44名(女性5名出席)

東部地区としては初めての試みとして営業サポートをしている女子社員も含めて中堅・若手社員を対象として研修会を開催しました。宇佐美専務理事より経験を通して工作機械と業界の変遷、主な出来事と教訓として現状と見通しについて講義がありました。そして英語、国語、経済に関する一般常識についてテスト形式により自分で考えた後それぞれの問題について説明がありました。研修会后同じ6階ホールにて交流会となりましたが、ケータリングによる飲み物、食べ物が用意され各テーブルでは参加者同士名刺交換を行われ大いに盛り上がりました。



中部地区正副会員懇談会

日時：2011年3月13日 13:30～16:00

会場：名古屋市工業研究所 第三会議室

名古屋市熱田区六番3-4-41

参加者：正副会員16社 24名

テーマ：「国内市場の動向と海外の取組み」

司会・進行：高田委員長

■ 開会の挨拶と委員会からの報告／高田委員長

昨年は東日本大震災、タイや国内で発生した水害、政治的な人災・天災など色々と厳しい一年でしたが、我々工作機械業界では1兆3261億円と国内・外共に30%以上のアップとなりました。特に海外比率が68.1%、国内は2005年対比で50数%という状況でしたが、2011年は我々にとってそれほどひどい年ではなかったと思います。

2012年の状況もそれほどひどくはないと言われていますが、円高が進んだことから、国内企業はどんどん海外に進出しています。トヨタさんが300万台を死守すると言っていますが、これは車輛組み立てのみの話であり、ユニットとしては500万台以上のエンジン、ミッションが国内で加工され組み立てられていたものが、現在では400万台前後です。将来的に東南アジア・アメリカ・ヨーロッパ・中国・アフリカなどでユニットが組み立てられれば、これまで我々を支えていた自動車業界は数年後には非常に厳しい状況になると思います。その中で皆様と共に生き残って行くための情報交換を行い、共に発展させて行きたいと考えています。

★正会員各社からの報告

A 2011年度の消耗品類は程々の数字でタイ及び国内の災害に関連する受注はほぼ皆無。設備引き合いは多く受注するものの80%以上が海外案件。その中では国内・外の客先、メーカー共にコミュニケーションの欠如に困っています。その為仕事はあり、売上も上がるが締めてみると利益が出ていないことが憂慮されます。客先技術の能力低下などから、納期だけが先行し仕様もなかなか決まらない。決まった頃には既に納期となり、トラブルの要因となる。メーカーも能力が低下していることから我々が綿密に打ち合わせから議事録にしっかり記録することが肝要となることから、社員の再教育を図り営業力を発揮出来るようにすべき。主設備は日本国内調達でも付帯設備類は現地調達の意向が強く、各客先がインド・中国・タイなどへの展開で

メーカー探しをする為のアテンド対応が多い。探した機械を買って各社が社内でテスト中であり、現地メーカーとのパイプが無い商社は今後にも苦慮することになります。ターンキーの案件も多く現地社員のみでは対応が難しいが、逆に見れば商社にとって生き残りのチャンス到来と考えています。

B 国内対応のみで、対ピーク時60%工作機械では30%自動車の設備には期待しており、特に海外向けの国内調達に期待。当面は中国の動向に注視しつつ年内の上昇を期待。金型関連は減少とみている。

C 金型関連が主であり、対前年プラス10%となっているが、当面の設備は殆ど期待出来ない。優位性を持った1～2割の企業も全てがASEANへの展開と見えています。当面は殆どがインドネシア・ベトナム・タイなどで進行中或いは予定していると見られる。今年から新たにタイへも常駐での展開を決定した。但し、業界関係者からは国内でも、九州・沖縄・東北への展開を検討する余地は有るとのアドバイスもあった。

D 海外の構成比は20%で今後、強化を進める。議事録がしっかり書けない営業も多く、教育に苦慮しているところ。営業の効率化を見直しており、直販・卸売り・海外担当をマルチで担当出来ると共に、全員が輸出入業務に携われるようにしないと後は難しいと考えている。

E 現状の忙しさはあるが国内対応のみのため先行きは難しい。客先企業の統廃合が進んでおり、設備の決定権が守備範囲外に移転してしまうことに伴う受注の減少が課題である。

国内調達の海外向けはあるが初期設備で終わりに続かない。海外展開中や検討中の企業もあるが、進出する為の人材が居ないため、国内販売のみ奮闘している状況。

F 大手ユーザー各社は前年より強気の増産をしており、70～80%が海外向けと見ている。

メーカーの国内・外コミュニケーションの悪さは強く感じているが、残念ながら自社も同様の感があり、双方での改善が必要である。中国では大型案件が舞い込むが信用面での不安が払拭出来ないジレンマがある。打ち合わせから仕様書作成まで散々苦勞させられた挙句、ローカルメーカーにばら撒かれ、最後はコストで当然の如く負けてしまう。日系ユーザーも同様で日本製が必須ではなく、コス

ト至上であり、ローカルや周辺国メーカー志向である。更にローカルメーカーはヨーロッパメーカー志向でもある。

G 自動車向けの設備主体であり前年比プラス10%、対2007年ではようやく55%迄の戻り。

大手ユーザーの国内は殆ど無く、海外での基本は現地調達、難しい物だけ国内からの調達。

中古機の要求もあるが、低価格プラス高品質を求められるので多分に苦慮する。

当面は動きがあるものの数年後は空洞化が懸念される。低価格への対応で中国・韓国を利用すると20~50%の不良が発生し後処理のリスクが伴う。

15年前からUSA、そして欧州・韓国・中国に進出し、現在タイを検討中の段階。中国の日系企業それぞれの社長からは、日本から物は買わないと明言されている。台湾・韓国・中国からの調達指示が基本で、現代・GM・フォードなどに対峙するためのコスト対策としての至上命令があると考えられる。

大手の一時下請けでも台湾などの機械をテスト購入し耐用性をチェックして追加工で使える物にならないかを模索している。

H 対前期プラス30%、リーマン・ショック前比70%、過去3年は堅調に推移したが投資減の傾向は顕著。国内部隊は伸びが無く、海外部隊は伸びている。国内で設備受注してもタイ・中国などの海外向けである。高付加価値、高精度への対応をすればトライ出来る分野はまだ多くあり、住宅産業の自動化などでも視野に入れて市場開拓に取り組む。設備の専門知識は更に研鑽を積んで海外へ視点を向けて活動すべきと考えている。10年前から、タイ・中国・インド・インドネシアと展開してきたが、インドだけは風習・税法・風土・制度などで最も苦戦を強いられている。

I 殆どを設備類に対応しており国内状況も悪くはないが、メーカーの枠に余裕がなく苦慮している。増産設備に対応しているが許容枠をオーバーするためクレーム発生の要因となっている。このため営業の無駄が多々発生。設備引き合いがあっても納期面で対応出来ない状況にある。リーマン・ショック前比では60~70%の回復度なるも、更に伸ばす余裕はなく現状の負荷がいっぱいの状況。自動車は更なる開発に向けて案件も多いがメーカーもマンパワー不足であり枠取りが叶わず苦慮。社内教育を進めるも中々育たず能力低下を来し、客先のニーズに対応しきれない状況にある。海外対応は、前提となる必要な国内基盤が不十分で人材も無いので、海外の人材を国内で育成し送り込みた

いところ。国内だけではシリ貧と考え、中国への展開を準備中。

J 中古機の扱いが増えている。メーカー曰く、最大の競合先は自社の中古機との弁。この要因は納期対策、コスト対策と考えられ当面の状況下では妥当な判断と見ている。メーカー各位の国内配分枠拡大を日工会へ申し入れて欲しいと切望する。設備整理のため中古機の買い取り要請も来ており中古機の相場もアップしている状況。金型関連ユーザーは上位のみ好調で、他は海外展開の余力も無い。

K 展示イベントに一次部品メーカー・生技関係の積極来訪を得て、国内もまだ期待が持てることの影響を得た。海外展開に向けては、全員が対応出来るための取り組みとして全社員TOEIC350以上、管理職は500以上の取得を指示している。中国では現地調達への対応として、韓国・中国・台湾の良いメーカーを見出すべく調査しているも、まだ中々見出せない。

L リーマン前ピーク時の75%まで回復した。エネ革税制への取り組みを全社員に徹底させた結果、中小に対しては多分に貢献したと捉えている。建機関連では小型向けの設備が昨年前半多かったが、キャタピラーでは世界規模であることから時期に関係なく設備を継続している。その中で中国向けが40%を占めた。中国への対応は、ユーザーに対して国内でのベストな営業マンが主導し現地事務所と協力して日系企業に対応するようにしている。

M 2010年は極めて悪かったが2011年は少し好転した。設備案件の70~75%は海外向けである。インドも引き合いが増加しつつある。しかし国内の体力を残しつつ海外対応を行うこととのバランスが取れず難しい。特にマネージャークラスの力量が必要で負荷が増大している。取り組み国は、インドネシア・インド・タイ・USAでいずれもユーザーの要請に依り進出しており、責任者のみ派遣して他は現地社員。ピンポイント営業が主である。対応力が足りない場合は出張者に依ってフォローする。現地責任者は多岐に渡る労務管理を強いられ、高負荷となっている。これまでは良いとしても今後の交代要員の目処が立たない問題がある。売上回復度は70%程度まで戻したが人員は据え置きであり、国内外の負荷バランスが課題。地区内には海外展開無しでも業容を維持している同業もあり、内容をリサーチしてみたい。

N リーマン以後、小企業の更新需要は出ているも、まだ厳しい状況にある。国内の中、大手は精密・高付加価値を目指しており、これに如何に提案をして

案件を取り込むかが課題。北米・ブラジル・中国・タイ・インド、そしてインドネシアも立ち上げたが、これらの拠点と如何に連係して情報を共有しながら対応して行くかが肝要。ブラジルは進出企業への対応、中国は80名で多岐に対応中、タイは中小の復興需要に対応中、インドは車関連に対応中、インドネシアは進出企業の新規設備に対応中で如何に案件を取り込むかが課題。

○ 工作機械商社55社の平均業況推移データの報告：2007年を100とし2010年は68%、2011年は78%（分布は60～85%）。この中では工具類の回復が悪く、特に卸売りが苦戦。専用機を受注製作しているが近年はMCでのライン構成が多くなり困った状況にある。中国／上海では人材が乏しいため自動化が進められているが、実態はごく初期の自動化である為、対応したくてもコストが合わず、その為にはマルチで対応出来る人材が必要となる。タイにおいては現地スタッフ育成を試みるも、技術を習得した段階で退職してしまう。海外の現地スタッフは全てにマルチでの対応力が要るが、どうしても無理が出るので国内からのサポートを派遣するがトラブルが多々発生する。特に中国は特別に大変との実感がある。

P 国内は大変苦戦している。年末から新年は一次的に大手が動いたがその後は悪化。代わって下層からの引き合いが出てきている。展示会の動員数は増加し、設備ブースでの対応時間も伸び、淘汰された生き残った優良中小の設備意欲が感じられる。厳しい中ではあるもピンポイントでは好調に推移するユーザーも予測される。海外は早期に進出して順調に推移しているが、台湾と中国で自社の拠点同士が案件を取り合うなどの混乱も発生している。海外への展開は社として推奨されている反面、国内が厳しくなっている。中国・台湾・タイ共に好調でインドネシアが良くなりつつある状況。ヨーロッパはまだ途上のため金融危機の影響は特に及んでいない。国内の設備部門は縮小気味なるも、今後も頑張って取り組みたい。

Q 前年比120%、対ピーク時では55%なるが人員減を考慮すると80%と見る。

扱い商品は殆どが切り粉を出さない図面付き製作物であり、ラインの最終工程が主であるため、回復が遅れることから、今年後半に期待している。自動車関連は少ないため、電池類・電子部品・基板などを攻略して数字を維持した。エンジン関連は農機・建機の自動化に取り組んだ。

海外は進出していないため既進出商社を経由して

対応し、今後も継続が見込まれる。唯一タイのみ、日系に対して短期滞在で現地調達を含めて現地に対応している状況。当初は現地に拠点進出しなければ注文は出せないとの圧力もあったが、いざ行ってみると概ね便利屋にされてしまい、深夜12時でも呼び出されるような始末。実がある方向に進展すれば良いが暗中模索である。中国の大手建機メーカーからの量産ライン、ターンキー案件に対応中なるも、ワイロには対応しない方針から、決まればありがたいが成否は微妙。決まっても対応力面での厳しさもある。スタッフの育成では新規採用し国内向けのOJTでも5年、海外対応では更に5年が必要であり厳しい。

★その他

山下機械／山下会長から時間外労働への適切な対処に関して意見交換の提案があり、各社から実態報告や対処のアイデアなど、意見の交換がありました。

★委員長からのまとめと挨拶

2011年度は工具関係では約10%～15%アップ、工作機械関係では前年比20～35%アップの状況のようです。リーマンに依る落ち込みが、工作機械関係がより大きかったことから、回復度合いは75～80%位ではないかと伺いました。2012年度もそれぞれの格差は出るかもしれませんが、皆様のお話から、それなりの仕事量は確保出来るのではないかと思います。但し、工作機械は海外への設備案件が多いことから現在の仕事量はあるものの、これに付随して工具関係も海外へ持って行かれることによって、工具の消費が徐々に下降して行く可能性があると思います。大手、中小も台湾、韓国、中国の海外メーカーをテストし徐々に使えるようになってきていることの判断もされており、メンテナンス迄出来るのであれば使ってみようといった会社も多々出てきていますので、日系で海外に進出したユーザーはこれからも一段と海外メーカーを使われるのではないかと思います。このような中で客先では技術レベルの低下もあり、反面要求レベルは上がっている事などから、各社が努力して営業マンの語学・技術レベルを含めたスキルアップを図るなどの努力に依り、我々商社がしっかりとジャッジメント出来るような能力を付けて行かないと、生き残ることが出来ないのではないかとといったことが、本日の皆様のお話から感じられました。今年はまだそれなりの仕事量はありますので、その中で各社とも基盤を再整備されることにより、今後も業界を発展させて行きたい。

甘口辛口



三菱商事テクノス(株)
産業機械事業部産業機械部 次長
本 多 長

「甘口辛口」この言葉を聞いて先ず思い浮かぶのは、両親・師そして先輩からの助言です。中には厳しいものもありますが、殆どは未熟な者を良い方向に導く、愛のこもった道標となる言葉で、「亀の甲より年の功」経験に優る知恵は存在しないのですから、人生の達人である年配者が子供や若い衆に、その場に応じて社会のルールを教えるもので、「人様に迷惑を掛けてはいけないよ、自分一人で生きていると思ったら大間違いだよ」を昔からの格言や、諺等を交えて上手く伝える事で、人への思いやりや身の施し方、努力の大切さや知恵の出し方、時には堪忍する心、強いては愛情までを諭す礎となる言葉です。

法学部出身の私は、工作機械が何する物とも分からぬままに、三菱商事工作機械(株)に1984年に入社しました。右も左も分からない世間知らずの私は良い環境と助言に恵まれました。入社一年を過ぎる頃、関係先の工作機械メーカーの設計部門に4ヶ月間お世話になるという、今では願っても叶わないチャンスを得ました。超御多忙の中何も分からない私に、手取り足取り色々とお指導頂き、製図盤で部品図を引かせて頂いた事は良い思い出です。

また、お客様にも恵まれました。成長産業を自ら見出し担当出来た事から、工作機械、クレーン設備、塗装設備、合理化ラインから受電設備に至るまでの多岐に渡り、その日々の商談を通して様々な体験や勉強をさせてもらいました。この時御指導頂いた諸先輩や、一緒にご苦労頂いた御担当者は私同様に年を取り、今では各社の要職に在ります。この点は良き経験だけでなく、今の商売の種(宝物)になっております。

若き日の経験として特筆出来る出来事と言えば、私の初めての海外出張の時の思い出があります。現地へのお土産を思案していた私は、お客様が喜ぶ物で現地ではなかなか手に入らない品物を出発間際まで探し続けていました。そんな私が出した結論は「卵」でした。今でも百数十円で買える生玉子を、機内持ち込み(現在は規制が厳しく多分機内に持ち込めない筈)で数千キロ離れた彼の地までハンドキャリーしたので。結果、お客様は翌朝日本の美味しいお米をお炊きになり、私の持参したサルモネラ菌の心配のいらぬ生卵を使って、玉子掛けご飯を大盛2杯完食されました。その時のお客様の笑顔と「美味しかったよ」の一言は、今でも忘れられる事は出来ません。そして当時の話題で今でも盛上る事を考えると、「知恵を絞ればお金以上の効果を上げる事も有り得る」を、実体験からお教え頂いた最初の出来事となりました。

人は年を取ると頭も体も柔軟性が無くなります。仕事に限らず生きている限りは知恵を使う事を忘れず、何事にも興味を持ち続け、若さを保つ努力が欠かせない様です。

「甘口辛口」の助言が出来るように、常に努力を惜しまずに邁進し続けて行かなければならないと、様々な経験を通して今考えています。

統

計

資

料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

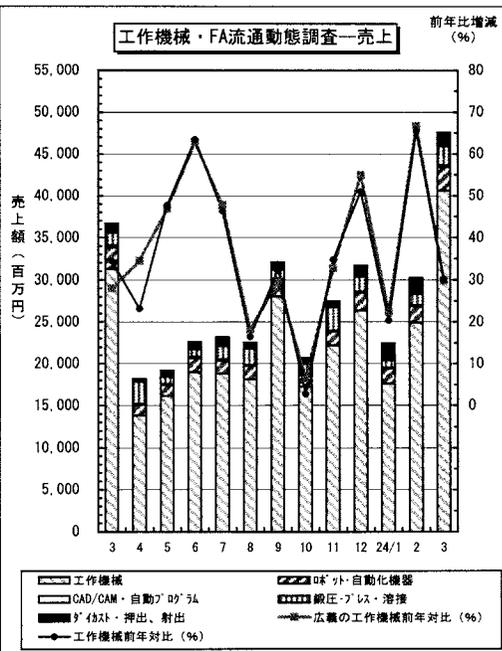
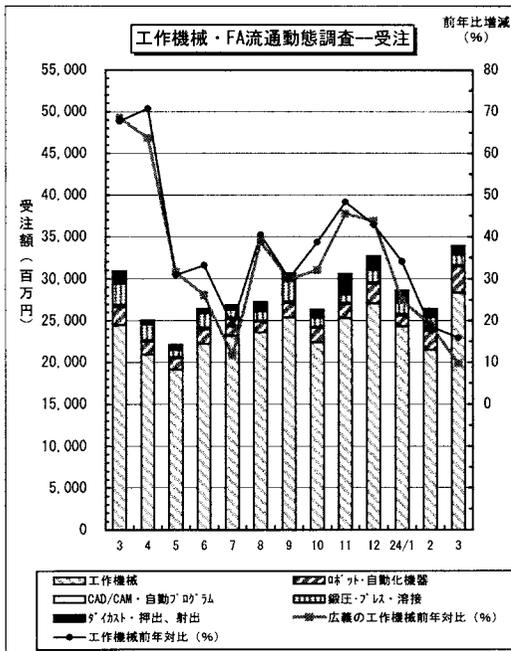
39社合計		受 注				売 上					
調査月次	24/3	前月比	前年比	23/4-24/3	前年比	24/3	前月比	前年比	23/4-24/3	前年比	
広義の 工作機械	工作機械	28,326	31.7%	15.9%	283,205	33.5%	40,644	63.1%	29.9%	262,779	34.8%
	ロボット・自動化機器	3,071	38.4%	40.4%	22,162	25.7%	2,801	47.4%	10.5%	20,948	33.7%
	CAD/CAM・自動プログラム	187	23.6%	-27.5%	1,798	3.6%	178	17.9%	-25.8%	1,655	-0.7%
	鍛圧・プレス・溶接	1,226	-20.7%	-51.3%	16,622	6.5%	2,267	72.4%	50.3%	19,195	75.7%
	ダイカスト・押出・射出	1,089	7.9%	-27.6%	13,165	0.8%	1,689	-12.4%	54.8%	13,202	27.2%
小計	33,899	28.3%	9.7%	336,952	29.5%	47,578	57.5%	29.8%	317,778	36.0%	
工作機械以外の扱い商品		17,791	39.9%	22.1%	178,743	11.5%	22,224	46.1%	13.9%	178,170	3.7%
合計		51,691	32.1%	13.7%	515,694	22.6%	69,803	53.7%	24.3%	495,948	22.3%
従業員数		1,274	-1.5%	-3.0%							

統計2

単位百万円

30社合計		受 注				売 上					
調査月次	24/3	前月比	前年比	23/4-24/3	前年比	24/3	前月比	前年比	23/4-24/3	前年比	
内 訳	直販 (内リース)	20,832	39.3%	20.4%	200,949	20.2%	29,041	54.3%	31.6%	189,279	16.0%
	卸	949	34.3%	-12.0%	9,346	-8.2%	1,634	76.2%	-3.0%	10,482	-2.1%
	輸入	6,185	10.4%	-10.7%	69,185	20.3%	10,380	107.1%	18.9%	64,318	10.2%
	輸出	971	8.9%	21.1%	11,106	-17.7%	1,382	76.7%	36.2%	11,376	-15.2%
	輸出 (内間接輸出)	12,441	63.9%	87.4%	107,954	48.8%	12,922	11.4%	76.1%	100,900	55.3%
小計	3,393	337.2%	396.8%	16,780	33.6%	4,648	377.7%	203.4%	17,629	28.7%	
従業員数		956	-2.1%	-4.0%							

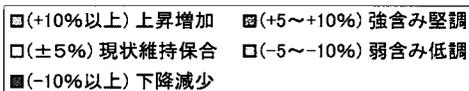
注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員69社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



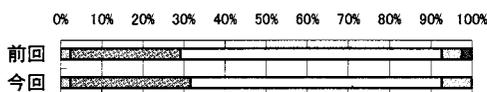
工作機械・FA流通動態調査2

今回平成24年4月調査/前回平成24年1月調査対比

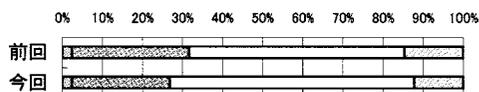
1. 工作機械全体見通し



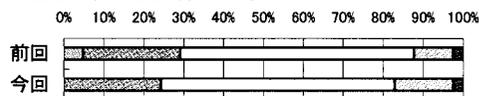
現状に比し直近(1~3ヵ月)は



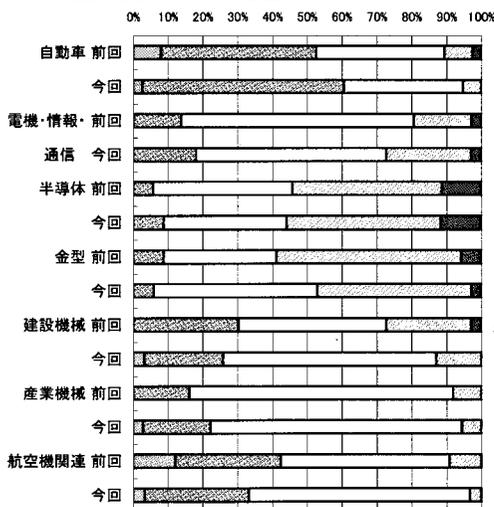
過去半年に比し向後の半年は



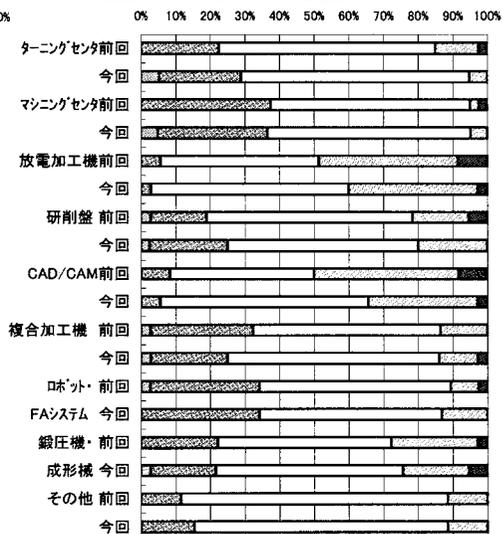
過去1年に比し向後の1年は



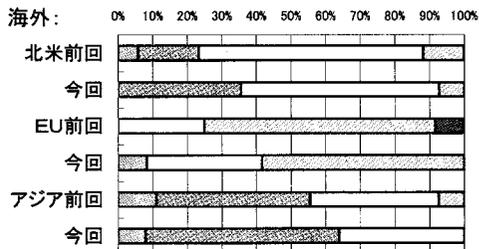
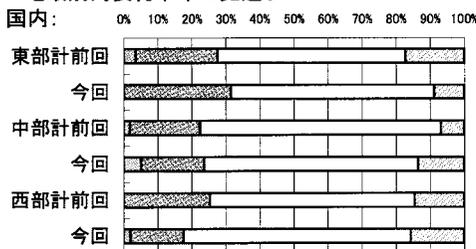
2. 市場別向後約半年の見通し



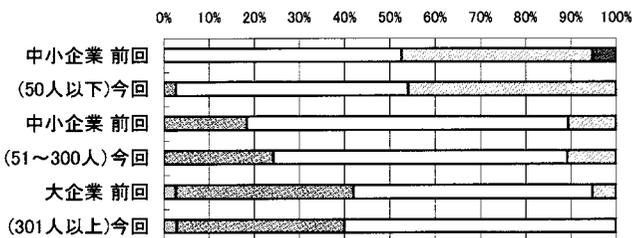
3. 製品別向後約半年の見通し



4. 地域別向後約半年の見通し



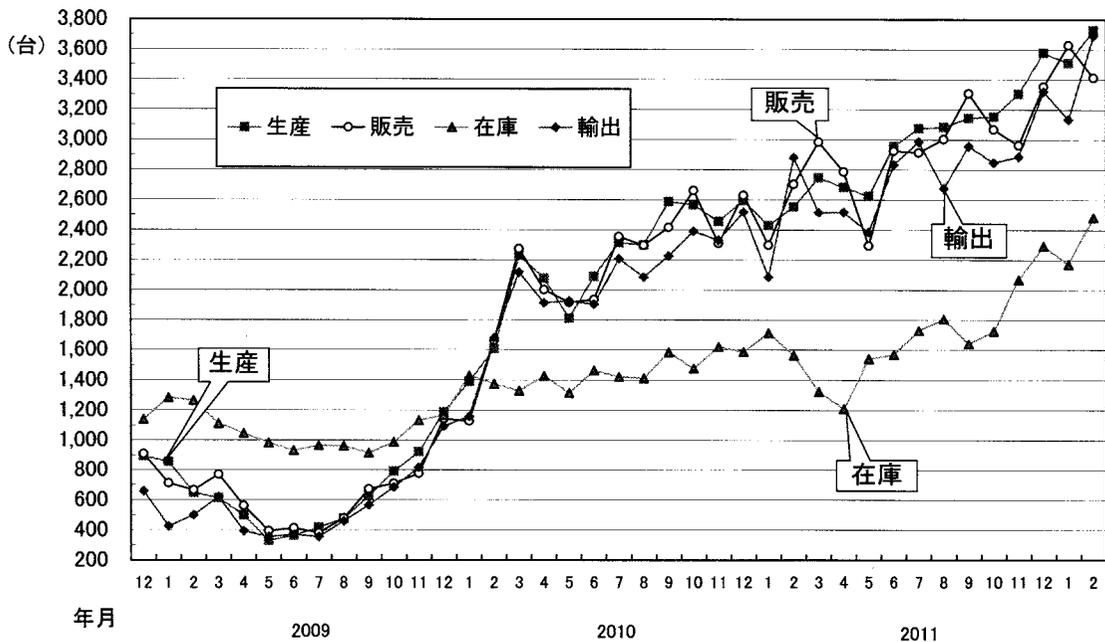
5. ユーザー規模別向後約半年の見通し



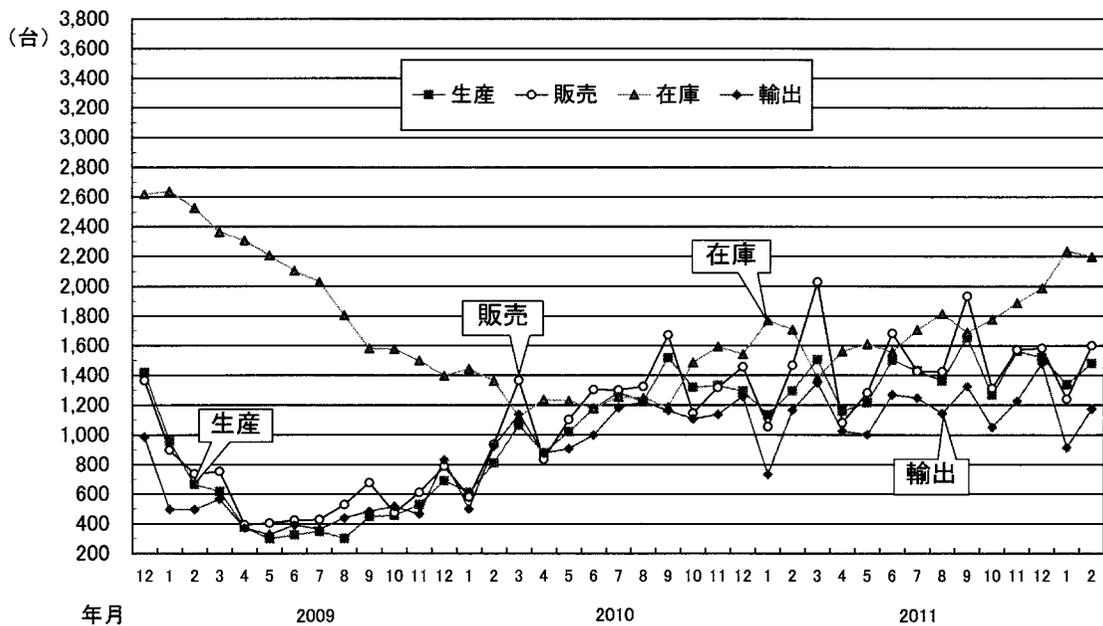
注:調査データは日工販ホームページをご覧ください。

見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



出所：経済産業省「生産動態集計」、財務省「貿易統計」

工作機械業種別受注額 (2012年1・2・3月)

3月分 4月25日発表

(単位: 百万円、%)

需要業種	期間	2011年 累計	前年比	2011年度 累計	前年比	2012年 1~3月 累計	前年 同期比	1月分	前月比	前年 同月比	2月分	前月比	前年 同月比	3月分	前月比	前年 同月比
機械 製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	8,766	144.6	7,722	102.4	1,551	59.8	252	20.9	27.7	658	261.1	88.3	641	97.4	68.2
	2. 金属製 品	16,595	147.9	16,104	124.5	3,276	87.0	781	59.9	49.3	1,203	154.0	81.5	1,292	107.4	183.0
	3. 一 般 機 械	188,942	150.5	185,664	123.3	42,646	92.9	12,256	83.5	91.5	14,340	117.0	80.6	16,050	111.9	108.9
	(内金型)	21,803	133.3	22,670	128.0	5,693	118.0	1,439	67.2	102.7	1,923	133.6	121.2	2,321	120.7	126.9
	4. 自 動 車	122,256	136.8	124,192	122.0	30,722	106.7	8,328	77.2	83.0	9,327	112.0	107.1	13,067	140.1	130.1
	(内自動車部品)	83,748	140.2	84,360	125.1	19,648	103.2	5,789	75.3	82.9	6,605	114.1	113.6	7,254	109.8	116.3
	5. 電 気 機 械	23,613	122.8	22,712	104.9	4,648	83.8	1,815	100.2	128.4	1,191	65.6	39.1	1,642	137.9	151.1
	6. 精 密 機 械	22,858	106.5	22,474	100.7	4,599	92.3	1,772	100.5	91.8	1,267	71.5	75.1	1,560	123.1	114.3
	5~6. 電 気・精 密 計	46,471	114.2	45,186	102.8	9,247	87.8	3,587	100.3	107.3	2,458	68.5	51.9	3,202	130.3	130.6
	7. 航 空 機・海 陸 運 送 用 機 械	13,662	97.2	15,231	97.8	5,038	145.2	1,289	104.4	155.3	927	71.9	58.0	2,822	304.4	271.3
	3~7. 小 計	371,331	137.7	370,273	118.7	87,653	98.8	25,460	84.1	92.2	27,052	106.3	82.4	35,141	129.9	124.3
	8. その他製造業	13,969	133.2	12,903	116.5	2,263	68.0	532	48.9	60.7	867	163.0	74.0	864	99.7	67.4
9. 官 公 需・学 校	3,247	98.6	2,780	78.8	485	50.9	209	34.1	107.7	212	101.4	147.2	64	30.2	10.4	
10. その他需要部門	5,287	106.7	6,079	127.5	1,661	191.1	433	64.1	119.9	547	126.3	114.0	681	124.5	2432.1	
11. 商 社・代 理 店	2,404	132.0	2,992	161.4	1,016	237.4	229	112.3	272.6	411	179.5	283.4	376	91.5	188.9	
1~11. 内 需 合 計	421,599	137.1	418,853	118.5	97,905	97.3	27,896	78.9	88.2	30,950	110.9	83.7	39,059	126.2	121.9	
12. 外 需	904,589	134.8	892,247	117.4	217,722	94.6	69,508	86.2	95.3	72,019	103.6	95.2	76,195	105.8	93.5	
1~12. 受 注 累 計	1,326,188	135.5	311,100	117.7	315,627	95.4	97,404	84.0	93.1	102,969	105.7	91.4	115,254	111.9	101.6	
(内NC機)	1,290,606	138.1	273,817	119.0	306,645	94.8	94,978	84.3	92.9	99,677	104.9	90.7	111,990	112.4	100.7	
販 売 額	1,179,316	138.5	246,026	129.3	366,430	122.3	90,541	76.6	123.7	107,618	118.9	119.1	168,271	156.4	123.5	
(内NC機)	1,143,920	140.4	207,291	130.2	354,171	121.8	87,872	76.5	124.7	102,065	116.2	116.2	164,234	160.9	124.0	
受 注 残 高	653,138	128.5	603,683	111.8	603,683	111.8	660,008	101.1	122.2	656,777	99.5	116.9	603,683	91.9	111.8	
(内NC機)	623,263	130.2	576,781	112.6	576,781	112.6	630,378	101.1	123.3	628,011	99.6	117.9	576,781	91.8	112.6	

(注) その他製造業 …… 楽器、皮革製品等の製造業

出所 (一般社)日本工作機械工業会

2011年 世界の工作機械需給

■ 世界の工作機械生産

(単位：百万ドル)

	2011年(速報値)				2010年(確報値)		対前年伸び率 米ドル 換算
	合計	切削		成形		合計	
1 中国	27,680.0	19,099.2	69%	8,580.8	31%	20,910.0	32%
2 日本	18,353.1	16,334.3	89%	2,018.8	11%	11,971.4	53%
3 ドイツ*	13,494.7	9,986.1	74%	3,508.6	26%	9,488.8	42%
4 イタリア*	6,232.6	3,054.0	49%	3,178.6	51%	5,017.9	24%
5 韓国	5,641.0	3,892.3	69%	1,748.7	31%	4,498.0	25%
6 台湾	5,000.0	4,000.0	80%	1,000.0	20%	3,877.0	29%
7 米国	4,161.1	3,037.6	73%	1,123.5	27%	3,340.1	25%
8 スイス*	3,462.7	2,908.7	84%	554.0	16%	2,395.2	45%
9 スペイン*	1,053.3	674.1	64%	379.2	36%	836.9	26%
10 オーストリア*	1,001.8	541.0	54%	460.8	46%	844.0	19%
11 フランス*	930.7	567.7	61%	363.0	39%	662.2	41%
12 ブラジル	873.4	707.5	81%	165.9	19%	837.4	4%
13 トルコ	668.0	167.0	25%	501.0	75%	555.0	20%
14 英国*	658.0	473.8	72%	184.2	28%	507.2	30%
15 カナダ	639.3 c	383.6	60%	255.7	40%	546.8 c	17%
16 インド	576.0	501.1	87%	74.9	13%	512.0	13%
17 チェコ*	446.0	356.8	80%	89.2	20%	372.0	20%
18 オランダ*	400.7	80.1	20%	320.6	80%	317.8	26%
19 ヘルギー*	375.6	75.1	20%	300.5	80%	298.0	26%
20 ロシア	263.0	107.8	41%	155.2	59%	219.0	20%
21 スウェーデン*	218.4	83.0	38%	135.4	62%	207.9	5%
22 フィンランド*	166.9	33.4	20%	133.5	80%	135.1	24%
23 メキシコ	122.4 c	71.0	58%	51.4	42%	165.5 c	-26%
24 オーストラリア	100.9	86.8	86%	14.1	14%	113.6	-11%
25 デンマーク*	76.5	30.6	40%	45.9	60%	72.8	5%
26 ポルトガル*	73.7	15.5	21%	58.2	79%	66.2	11%
27 ルーマニア	42.5 u	30.2	71%	12.3	29%	42.5	0%
28 アルゼンチン	32.3	16.2	50%	16.2	50%	29.0	11%
合計	92,744.7	67,314.2		25,430.4		68,839.3	34.7%
●ブロック別シェア	2011年			2010年			
アジア・大洋州	57,351.0	62%				41,882.0	37%
*CECIMO(西欧)	28,591.6	31%				21,222.0	35%
北南米	5,828.5	6%				4,918.8	18%

注：c：断片的資料からの推定。\$：USDドルでの報告。u：2010年の未改定数値(11年レートでドル換算)。
原データは切削/成形比率のみを発表しているため、編集部で小数点以下第2位を四捨五入で換算。

■ 国別消費額

(単位：百万ドル)

	2011年		2010年		対前年比伸び率 米ドル換算
	合計		合計		
1 中国	38,370.0		28,480.0		35%
2 日本	7,620.5		4,889.8		56%
3 ドイツ	6,956.0		4,677.5		49%
4 米国	6,611.9		4,313.4		53%
5 韓国	5,131.0		4,264.0		20%
6 イタリア	2,963.3		2,672.5		11%
7 インド	2,352.0		1,775.0		33%
8 ブラジル	1,990.0		1,861.3		7%
9 台湾	1,800.0		1,623.0		11%
10 メキシコ	1,360.9 c		1,060.4 c		28%
11 ロシア	1,317.0		1,165.0		13%
12 トルコ	1,285.0		864.9		49%
13 スイス	1,240.7		850.5		46%
14 フランス	1,182.5		850.2		39%
15 カナダ	1,143.6 c		848.8 c		35%
16 オーストリア	632.2		446.3		42%
17 英国	561.7		422.1		33%
18 スペイン	451.5		473.4		-5%
19 スウェーデン	372.8		259.6		44%
20 オランダ	328.3		256.9		28%
21 ヘルギー	301.9		252.9		19%
22 チェコ	291.0		130.0		124%
23 ルーマニア	243.0 u		243.0		0%
24 アルゼンチン	211.5		146.3		45%
25 オーストラリア	167.0		220.9		-24%
26 フィンランド	128.0		108.6		18%
27 ポルトガル	104.3		115.2		-9%
28 デンマーク	43.1		41.1		5%
合計	85,160.7		63,312.6		34.5%

注：\$：USDドルでの報告。C：推定値。u：2010年の未改定数値(11年レートでドル換算)。
上記統計は再輸出を含む。 ※消費=(生産+輸入)-輸出

■ 国別輸出額

(単位：百万ドル)

		2011年	2010年	対前年比伸び率	生産高比 (2011)
		合計	合計	米ドル換算	
1	日本	11,380.6	7,517.2	51%	62%
2	ドイツ	9,460.2	6,721.0	41%	70%
3	イタリア	4,451.9	3,260.5	37%	71%
4	台湾	4,000.0	2,960.0	35%	80%
5	スイス	2,955.1	2,058.7	44%	85%
6	中国	2,380.0	1,850.0	29%	9%
7	韓国	2,301.0	1,678.0	37%	41%
8	米国	1,874.0	1,559.6	20%	45%
9	スペイン	918.9	641.2	43%	87%
10	ベルギー	870.9	642.3	36%	232%
11	オーストリア	820.3	743.6	10%	82%
12	英国	818.5	629.7	30%	124%
13	フランス	747.1	513.8	45%	80%
14	オランダ	484.1	401.3	21%	121%
15	チェコ	473.0	441.0	7%	106%
16	トルコ	413.0	380.8	8%	62%
17	カナダ	266.2 c	264.6 c	1%	42%
18	スウェーデン	179.5	213.2	-16%	82%
19	フィンランド	139.1	112.6	24%	83%
20	ブラジル	107.8	100.4	7%	12%
21	デンマーク	96.0	91.4	5%	125%
22	ルーマニア	85.2 u	85.2	0%	200%
23	オーストラリア	78.0	87.7	-11%	77%
24	ロシア	64.0	60.0	7%	4%
25	ポルトガル	50.1	43.7	15%	68%
26	メキシコ	30.6 c	41.4 c	-26%	25%
27	インド	28.0	22.0	27%	5%
28	アルゼンチン	10.4	11.0	-5%	32%
合計		45,483.5	33,131.9	37.3%	—

注：\$：USドルでの報告。c：推定値。u：2008年の未改定数値(09年レートでドル換算)。
上記統計は再輸出を含む。

■ 国別輸入額

(単位：百万ドル)

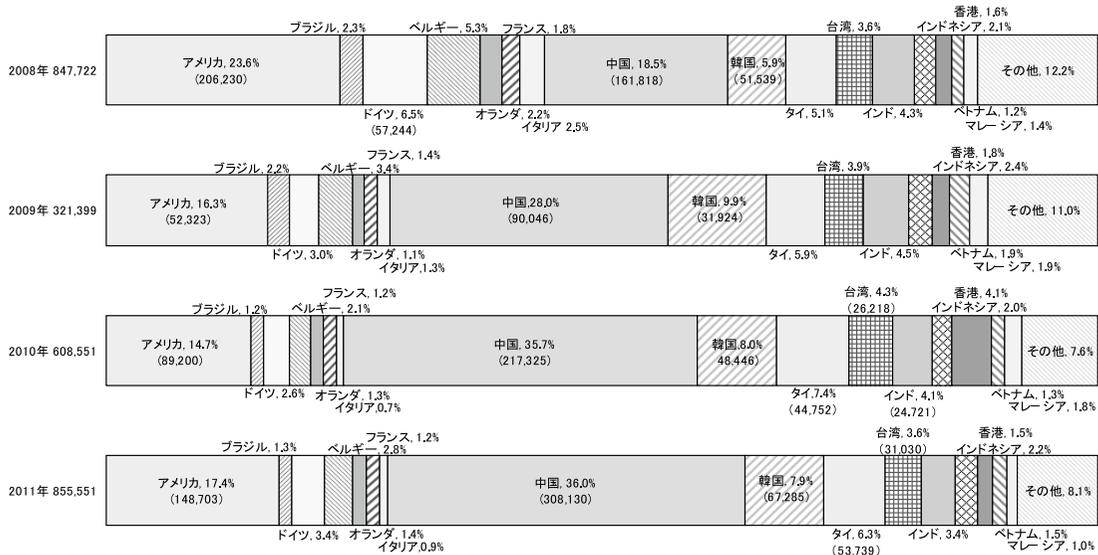
		2011年	2010年	対前年比伸び率	生産高比 (2011)
		合計	合計	米ドル換算	
1	中国	13,070.0	9,420.0	39%	34%
2	米国	4,324.8	2,532.9	71%	65%
3	ドイツ	2,921.5	1,909.7	53%	42%
4	インド	1,804.0	1,285.0	40%	77%
5	韓国	1,791.0	1,444.0	24%	35%
6	メキシコ	1,269.1 c	936.3 c	36%	93%
7	ブラジル	1,224.4	1,124.3	9%	62%
8	イタリア	1,182.5	915.1	29%	40%
9	ロシア	1,118.0	1,006.0	11%	85%
10	トルコ	1,030.0	690.7	49%	80%
11	フランス	998.9	701.9	42%	84%
12	台湾	800.0	706.0	13%	44%
13	ベルギー	797.2	597.3	33%	264%
14	カナダ	770.5 c	566.5 c	36%	67%
15	スイス	733.1	514.0	43%	59%
16	英国	722.2	544.6	33%	129%
17	日本	648.0	435.6	49%	9%
18	オーストリア	450.6	345.9	30%	71%
19	オランダ	411.8	340.4	21%	125%
20	スウェーデン	333.9	264.9	26%	90%
21	チェコ	318.0	199.0	60%	109%
22	スペイン	317.2	277.7	14%	70%
23	ルーマニア	285.7 u	285.7	0%	118%
24	アルゼンチン	189.6	128.3	48%	90%
25	オーストラリア	144.0	195.1	-26%	86%
26	フィンランド	100.2	86.1	16%	78%
27	ポルトガル	80.7	92.7	-13%	77%
28	デンマーク	62.6	59.6	-5%	145%
合計		37,899.5	27,605.3	37.3%	—

注：\$：USドルでの報告。c：推定値。u：2010年の未改定数値(11年レートでドル換算)。
上記統計は再輸出を含む。

出所：METALWORKING Insiders' Report/Gardner Publications, Inc.

主要相手国別輸出額構成

(単位: 百万円, %)



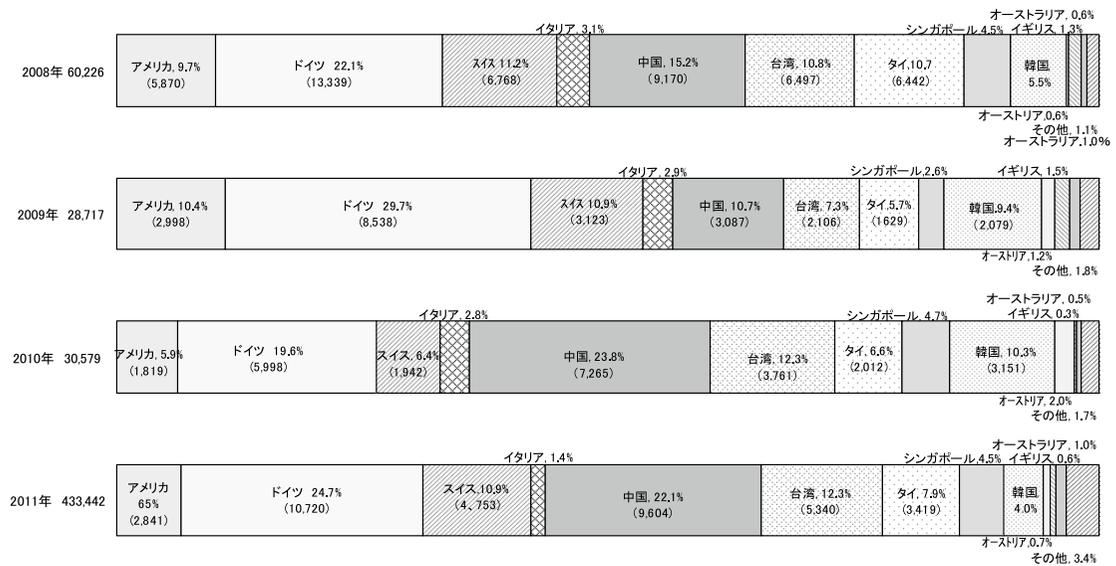
出所: 財務省貿易統

コメント (主要相手国別輸出額構成)

・ 2011年輸出額全体は、2010年比141%の状況。輸出額200億円以上を見るとベルギー187%、ドイツ181%、アメリカ166%、中国141%、韓国138%、タイ120%、インド118%、台湾118%の増となっている。

主要相手国別輸入額構成

(単位: 百万円, %)



出所: 財務省貿易統

コメント (主要相手国別輸入額構成)

・ 2011年輸入額全体は、2010年比142%の状況。輸入額20億円以上を見ると、スイス244%、ドイツ178%、タイ170%、アメリカ156%、台湾142%、中国132%の増となっている。減少は韓国が44%の減となっている。

行事予定

調査広報委員会	5月23日(水)	機械工具会館
第43回通常総会・講演会・懇親会	6月6日(水)	八重洲富士屋ホテル
中部地区正副会員懇談会	6月26日(火)	(株)井高 会議室
SE教育「基礎講座」第1回	6月28～30日(木～土)	日本工業大学
SE教育「基礎講座」第2回	7月5～7日(木～土)	日本工業大学
政策委員会・定例理事会	7月4日(水)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	9月5日(水)	大阪産業創造館
SE教育「SE講座」(東京)	10月11～13日(木～土)	機械工具会館
SE教育「SE講座」(名古屋)	10月18～20日(木～土)	マザックアートプラザオフィス棟
SE教育「SE講座」(大阪)	10月25～27日(木～土)	新梅田研修センター
SE教育「更新研修」(東京)	11月9～10日(金、土)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	11月15日(木)	安保ホール
SE教育「更新研修」(名古屋)	11月16～17日(金、土)	マザックアートプラザオフィス棟

展示会

MEX 金沢2012(第50回機械工業見本市金沢)	5月17～19日(木～土)	石川県産業展示館
次世代自動車産業展2012	5月30～6月1日(水～金)	東京ビックサイト
難加工技術展2012	7月4～6日(水～金)	ポートメッセなごや
IMTS2012(International Manufacturing Technology Show)	9月10～15日(月～土)	McCormick Place, Chicago
INTERMEASURE2012 第25回国際計量計測展	10月10～12日(水～金)	東京ビックサイト
JIMTOF2012(第26回日本国際工作機械見本市)	11月1～6日(木～火)	東京ビックサイト
第2回次世代ものづくり基盤技術産業展 TECH Biz EXPO 2012	11月28～30日(水～金)	ポートメッセなごや

第43回 通常総会 のご案内

当協会では下記により第43回通常総会を開催致しますのでご案内申し上げます。
ご予約願います。

期 日／平成24年6月6日(水)

会 場／八重洲富士屋ホテル

総 会／13：30～14：00

記念講演／14：20～15：40

演題：「世界経済を概観する」

講師：藤山知彦氏

三菱商事(株) 執行役員コーポレート担当役員補佐

全国際戦略研究所所長

懇親パーティ／16：00～17：50

会員・業界消息

経済産業省：

製造産業局産業機械課生産機械1係長 中島 徹 (5月1日)

入 会：

中部地区正会員 (株)大和商会
〒444-0303 愛知県西尾市中畑町小井戸27 TEL 056-59-8488 FAX 056-59-1280
代表者 取締役社長 平岩大吾

メーカー賛助会員 セイコーインスツル(株)
〒261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 TEL 043-211-1111
代表者 取締役社長 鎌田國雄

社名変更：

リース賛助会員 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)(旧社名 住信・パナソニックフィナンシャルサービス(株))
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1

住所変更：

リース賛助会員 三菱電機クレジット(株) 〒141-8505 東京都品川区大崎1-6-3

代表者変更：

メーカー賛助会員 (株)C&Gシステムズ 取締役社長 塩田聖一

退 会：

東部地区正会員 藤田総合機器(株)
リース賛助会員 NTTファイナンス(株) 興銀リース(株) 日本機械リース販売(株)

訃 報

日工販前副会長、現在顧問の植田機械(株) 代表取締役会長 植田精一氏が5月8日未明にご逝去されました。享年73歳。平成22年日工販創立40周年にあたり長年の業界発展への貢献により経済産業省製造産業局長表彰が授与されました。
心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

- 平成24年度の日工販ニュース発行は、昨年度同様5月、7月、10月、来年1月、2月の5回の発行となります。今年度第1回目Vol.1をお届けします。
- 新年度に入り、街では希望に満ちた真新しいスーツ姿の若者を見かけます。少し古いデータですが、2月1日時点の大卒予定者の就職内定率は80.5%だったそうです。求人倍率は大企業が0.65の超就職難で、一方中小企業は3.35で逆に超求人難と、安定志向なのか驚きのミスマッチです。2010年3月卒業の大学・専門学校生約85万人の進路とその後が調査され、中退6.7万人、進学7万・無職パート14万人、就職56.9万人であったそうで、就職者の内19.9万人は3年以内に離職する公算が大きいと推計され、中退も含めると52%にも達する40.6万人が、当面安定した職に就けないと推測されるそうです。高校卒業はさらに厳しく35万人中驚きの68%に当たる23.9万人が安定した職に就けてないと推測されるとのこと。結果15~24才の失業率は9.5%の高率で25~34才の1年以上長期失業率は信じ難い26.2%、35~44才のフリーターは50万人と過去最多になっています。この異変は極めて異常で日本の将来にとって大きな不安要素と思います。
- 日工会発表によれば平成23年度の総受注額は1兆3,111億円となり平成22年度に続いて1兆円超えとなりました。東日本大震災後の厳しい環境の中でスタートした昨年度の日本経済は欧州債務危機、タイの大洪水、一時1ドル75円台まで進んだ超円高という3つの大きな試練に直面しましたが、工作機械業界としては震災及びタイ洪水の復興需要による順風もあり波乱万丈の平成23年度でした。平成24年度は電力不足という懸念材料はありますが、円高の一服、米景気の復調により景気復調傾向の中でスタートしました。

「日工販ニュース」 Vol.1—2012

平成24年5月15日発行

発 行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電 話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 宇佐美 浩
編 集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成24年5月1日現在

正会員(全69社)

【東部地区(32社)】

(株)旭商工社
(株)伊藤忠マシンテクノス
(株)今井機械工業
(株)大石機械
(株)カナデン
(株)カネコ・コーポレーション
(株)兼松K G K
(株)京ニ
(株)共和工機
(株)群馬工機
(株)国興
(株)三機商会
(株)三洋マシン
(株)サンワ産業
(株)シマモト技研
(株)住友商事マシネックス
(株)セイロジャパン
(株)誠和エンジニアリング
(株)双日マシナリー
(株)帝通エンヂニヤリング
(株)テツカタ
(株)トミタ
(株)豊通マシナリー
(株)N a i T O
(株)ナチ常盤
(株)日鋼商事
(株)丸紅マシンツールズ
(株)三井物産マシンテック
(株)三菱商事テクノス
(株)ヤマモリ
(株)ユアサ商事
(株)米沢工機

【中部地区(21社)】

(株)石原商事
(株)井高
(株)岡谷機販
(株)力ト一機械
(株)釜屋
(株)岐阜機械商事
(株)甲信商事
(株)三栄商事
(株)三機商事
(株)サンコ一商事
(株)三立興産
(株)下野機械
(株)大成
(株)大成誠
(株)大和商

(株)東陽
(株)日本精機商会
(株)浜松貿易
(株)不二
(株)山下機械
(株)ワシノ商事

【西部地区(16社)】

(株)赤澤機械
(株)伊吹産業
(株)植田機械
(株)おじま
(株)関西機械
(株)京華産業
(株)五誠機械産業
(株)桜井機械
(株)ジーネット
(株)大幸産業
(株)立花エレテック
(株)西川産業
(株)日本産商
(株)マルカキカイ
(株)宮脇機械プラント
(株)山善

賛助会員(全73社)

【製造業(60社)】

(株)アマダマシンツール
(株)育良精機
(株)エグロ
(株)エヌティーツール
(株)MSTコーポレーション
(株)エンシュウ
(株)オーエスジー
(株)オークマ
(株)大阪機工
(株)岡本工作機械製作所
(株)カワイエンジニアリング
(株)神崎高級工機製作所
(株)北川鉄工所
(株)キタムラ機械
(株)北村製作所
(株)キャムタス
(株)黒田精工
(株)コマツN T C
(株)サンドビック
(株)C & G システムズ
(株)ジェイテクト
(株)シギヤ精機製作所
(株)シチズンマシナリーミヤノ

(株)新日本工機
(株)住友電工ハードメタル
(株)セイコーインスツル
(株)ソディック
(株)大昭和精機
(株)太陽工機
(株)高松機械工業
(株)滝澤鉄工所
(株)ツガミ
(株)津田駒工業
(株)東京精密
(株)東芝機械
(株)東洋精機工業
(株)ナガセインテグレックス
(株)中村留精密工業
(株)日研工作所
(株)日進製作所
(株)ハイデンハイ
(株)浜井産業
(株)日立ツール
(株)ファナック
(株)富士機械製造
(株)ブラザー工業
(株)豊和工業
(株)牧野フライス精機
(株)牧野フライス製作所
(株)松浦機械製作所
(株)三井精機工業
(株)ミットヨ
(株)三菱重工機
(株)三菱電機
(株)三菱マテリアルツールズ
(株)メルダシステムエンジニアリング
(株)森精機製作所
(株)安田工業
(株)ヤマザキマザック
(株)吉川鐵工

【リース業(13社)】

(株)IBJL東芝リース
(株)共友リース
(株)近畿総合リース
(株)首都圏リース
(株)昭和リース
(株)JA三井リース
(株)東銀リース
(株)日本GE
(株)日立キャピタル
(株)三井住友トラスト・バナミックファイナンス
(株)三井住友ファイナンス&リース
(株)三菱電機クレジット
(株)三菱UFJリース